

カステッラロ・ラグセッロ (Castellaro Lagusello)

天気予報では雨となっていました、なるべく東の方向に行けば雨の降る時間も遅くなるだろうと考えて、今回は東方向へ足を伸ばしました。今回の目的地は、最近ハマっている「最も美しい村」と「小さな街・村」のダブル推薦の村、カステッラロ・ラグセッロという日本人には舌を噛みそうな名前の街です。ここは、ミラノの東、ロンバルディ平野の真ん中、ロンバルディ州マントヴァ県のモザムバーノというコムーネの中の小さな村です。モザムバーノの人口が 4900 人ですから、この村の人口は数百人だと思います。マントヴァから 30 キロのところの位置し、当然、列車の駅もあるわけがないような村です。従って、一番近い列車の駅は、マントヴァではなく、デセンツァーノ・デル・ガルダかペスキエーラ・デル・ガルダになり、それぞれから 14-5 キロの距離となります。もちろん日曜日にはバスはなく、当日の帰るときまで知らなかったのですが土曜日にもバスがないのです

行くときは、ちょうど良い時間にバスがないことがわかっていましたので、デセンツァーノ駅前からはタクシーに乗りました。運ちゃんに舌を噛みながら行き先を告げると直ぐに OK となり出発しました。デセンツァーノから、20 分の行程はいくつかの小さな街の傍を通ります。それらの街には立派なお城があり、途中下車して観光をしたくなってしまいます。最初に見えたのがサン・マルティーノ・デッラ・バッターリアにある高く立派な城塔です。その次にポツォレンゴの街の丘の上にあるカステッロです。要するに、このあたりの村は、ブレーシャ、マントヴァ、ヴェローナの交点にあり、歴史的にもヴィスコンティ家、ゴンザーガ家のロンバルディの領主とヴェネツィア共和国との争いの場となっていたことにより、各街や村には、防衛のための城が築かれたのだと思います。本当は、ゆっくりと一つ一つの街を周って歩きたいところですが、それでは限がありません。やはり、「最も美しい村」等で推薦されている街や村に絞るのが正解だと思います。

カステッラロ・ラグセッロのもこの地域の他の街や村と同じような歴史をたどっています。お城と城壁が建てられたのは 11-12 世紀で、ヴェローナの支配下のときです。14-15 世紀にはミラノのヴィスコンティ家とマントヴァのゴンザーガ家の支配下が交互に続き、その期間にヴェネツィア共和国との抗戦のために、さらに強固に補強をして防衛を図りました。しかし、14 世紀の中旬にヴェネツィア共和国に屈して、この村の防衛システムは城壁を除いて取り払われてしまいました。17 世紀にヴェネツィア共和国はこの村を競売にかけて貴族の持ち物となり今日に至っています。

タクシーを降りて、まるで参道のような、いくつかのレストランやお店が並ぶ石畳の道を南方向に歩きますと、直ぐに村の入り口の門が見えます。城壁に開けられた門へは石の橋がかかっていますが、17 世紀までは跳ね橋だったそうです。門の周りには立派な城壁があります。丘の上の城と違って平地の城の城壁は高く頑丈そうです。ヴェネツィアはどうやってこんな頑強な城壁の城を攻めて戦いを勝利に結び付けたのでしょうか。この城壁を見る限りまともに攻めては不可能なように思えます。それに、城壁は壊されてなく当時の状況を今でも保っています。兵糧攻めなのでしょう。それとも、城壁の中にスパイ又はトロイの木馬のようなものを送り込んだのかもしれません。それとも、勝てないと悟った防衛隊が城を捨てて逃げ出したのかもしれません。まだ残っている城壁の中には、教会があり、民家があり、レストランもある村になっています。お土産屋も 1 件だけありました。それらすべてが、この村にふさわしい中世の雰囲気維持するような家の造りになっています。教会には木製のマリア様があり、この教会のご神体となっているようです。それに関連しているのでしょうか、教会の直ぐ傍に木造の彫り物の店がありました。



城壁内の一番南の奥には、この村をヴェネツィアから買い取った貴族の館があります。この館は、13世紀の城を利用して建てられたもので、13世紀の建物が所々に残っているそうです。館の前にはきれいな庭があるのですが、そこの門は鍵がかかっていた。この貴族の館は前もって申し込みがないと中を見せてもらえないそうです。この南端にある城壁が一番立派で、この城壁の向こう側にはハート型の湖があります。一番よいところです。ですからここに館を建てたのでしょう。南の端に湖に通じる小さな門もあるのですが、その門も鍵が閉まっていたので、残念ながら湖まで行くことが出来ません。管理人がいたので聞いてみましたが、英語ができず意味不明で、クローズと言うばかりです。他のイタリア人観光客も行けないようなので仕方がありません。



入ってきた村の入り口まで戻り、城壁の外に出て、城壁の周りを歩き外からこの村を見ることにしました。しかし、どうしてもハート型の湖にたどり着けません。湖の近くは、貴族の館の私有地部分とその両側は村の畑となっていて畦道もなく、おまけに番犬までいて通れないのです。仕方なく、東と西からこの村を眺めることが出来ただけです。



小さな村ですから観光には2時間あれば十分でした。バス停まで戻り、その近くのトラッテリア兼パールで一休み。パールではカウンターでパニーノとカプチーノで腹を満たしたのですが、美味しそうな白ワインを注文する客が多く、それを見てつい注文し、味わったらすごく美味しいワインでした。店のご主人に聞くとこの村で作っている白ワインとのこと。イタリアのどの街や村でもおらがワイン

がちやんとあるのですね。そういえば、村へ続く参道に“VINO”の看板の店がありました。



そのバーで、帰りのバスの時間を聞いたときに初めて土曜日にバスがないことを知ったわけです。でも、親切な店のご主人が、代わりにタクシーを呼んでくれて、行きも帰りもタクシーとなってしまいました。タクシー代は、行きはメーター付タクシーで 32 ユーロ、帰りはメーター無しのタクシーで 30 ユーロですから、この村の近くのタクシー会社(呼んでから 5 分で来ました)だったようです。またまた、地元の親切なおじさんにお世話になりました。やはり、田舎のおじさんは親切ですよ。帰りはデセンツァーノまで 15 分ほどでした。雨が降ってきたので駅に直行してもらいました。

この村を出たのは午後 2 時前ですが、ちょうど雨がぱらつき始めたころでした。今日は、ミラノから東に向かって正解だったようです。朝から曇ったり晴れたりとはっきりしない天気でしたが、何とかこの時間まで雨は我慢してくれました。

そういえば、この辺鄙な村では携帯の電波もかなり弱く、携帯からではタクシー会社に電話できませんでした。イタリアではまだ携帯も通じないところがあることがわかりました。ですから、タクシー会社への電話はお店のダイヤル式の古い電話を拝借しました。今回もたっぷりとイタリアの田舎の雰囲気を味あわせてもらいました。